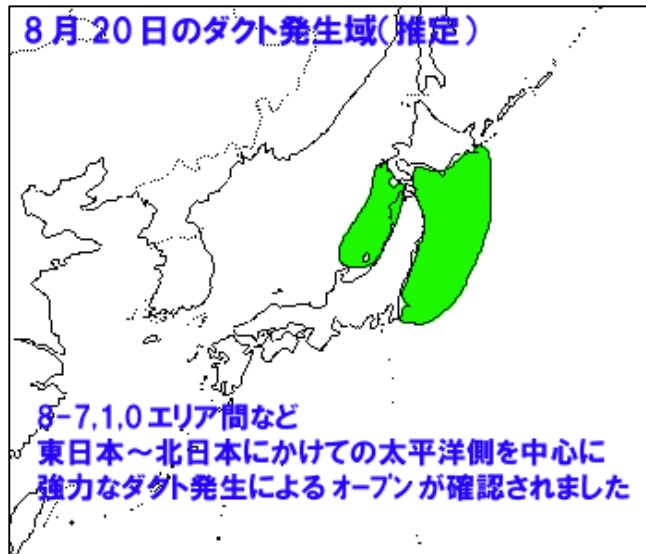


# 《 速報 》 関東～北海道を中心に 東日本・北日本でダクト発生、大オープン！

2001年 8月20日 JG0TEV 中村 豊

## 1.はじめに

8月20日夜は、東日本、北日本で強力なダクトが発生！8 1, 7, 0エリア間をはじめとして各エリア間でダクトによる交信が確認されました。  
そこで20日の気象状況について確認し気象解析によってダクト発生の裏付けをとりたいと思います。

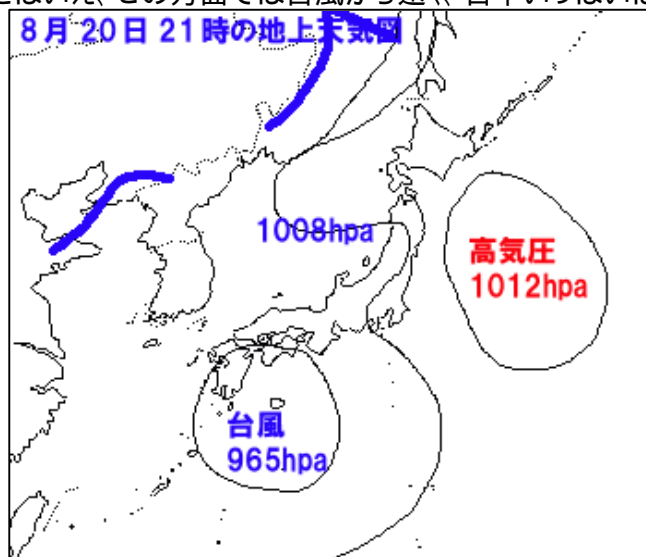


## 2.気象解析からダクト発生についての裏付けを行う

(1)地上天気図の移り変わりからダクトの発生を解析する

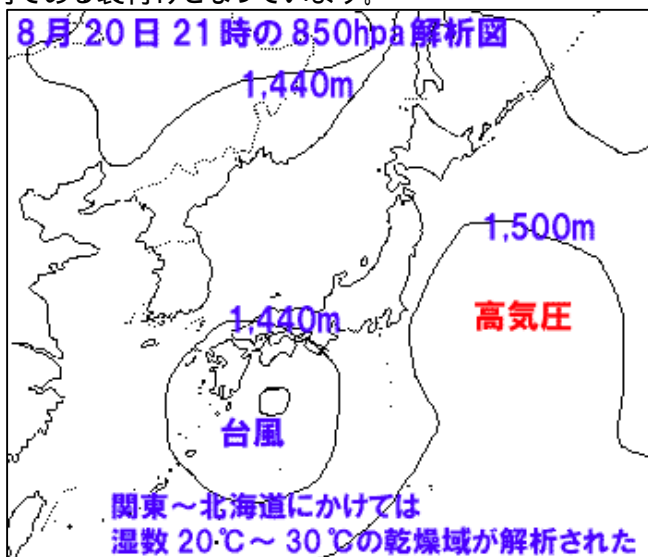
20日の地上天気図を見ると、本州の東海上に勢力を弱めつつある移動性高気圧があって北日本や東日本を覆ったことがわかります。

勢力が弱まっているとはいえ、この方面では台風から遠く、日中いっぱい晴天となりました。



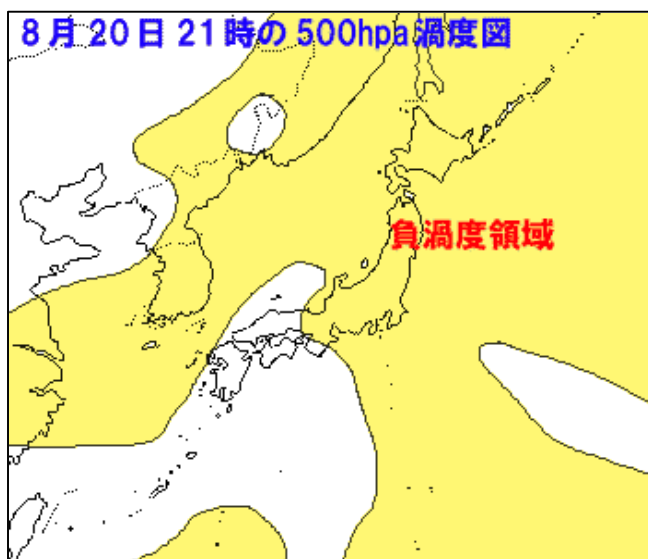
(2)850hpa図から最下層大気の状態からダクトの発生を解析する

上空の高気圧に伴う1,500mの等高度線で囲まれた領域は19日と比べて狭くなり、高気圧の勢力そのものは弱まる傾向である裏付けとなっています。



(3)500hpa渦度図から中層大気の状態からダクトの発生を解析する

中層大気500hpa渦度図を見ると、前日から引き続いて東日本や北日本を中心に負渦度領域に覆われました。



### (3)700hpa湿数予想図から下層大気の状態からダクトの発生を解析する

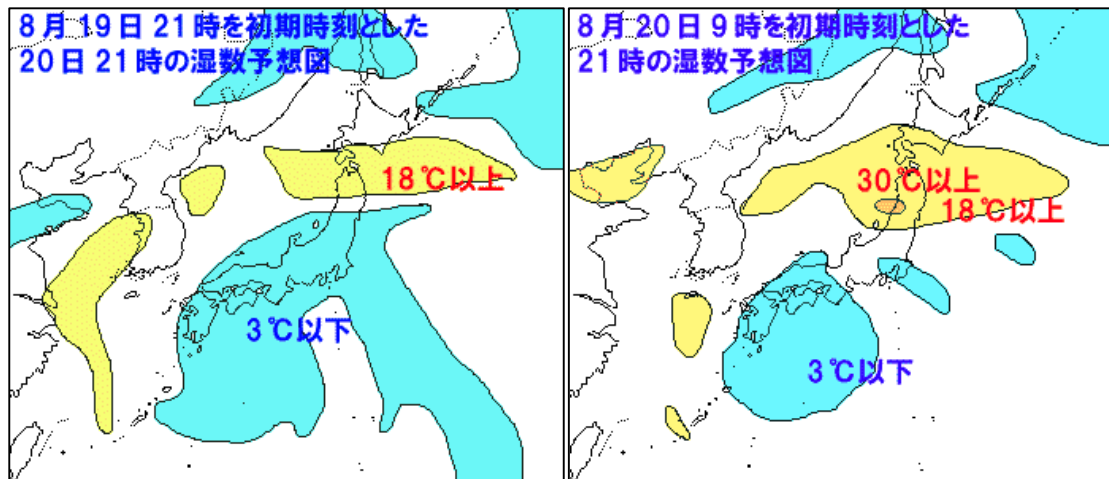
下層大気700hpa湿数予想図からは特記すべきことがあります。

最初、19日21時を初期時刻とした20日21時の湿数予想図では、西日本から東日本一帯に台風に伴う湿潤域の広がりが予想されていたので、上空も含めて湿潤空気に覆われると予想されダクトの発生は無いと予想していました。

ところが、20日9時を初期時刻とした21時の湿数予想図では、湿潤域の広がりは西日本止まりで東日本や北日本の上空には非常に乾燥した空気が流れ込む予想に変わりその領域も広がる傾向に変わりました。

さらに、実際には先の850hpa解析図に書いてあるように、関東付近から北海道にかけて湿数20～30といった非常に乾燥した空気が流れ込んだことが解析されています。

(湿数 = 気温 - 露点温度 … 湿数が大きいほど空気が乾燥している)



以上の気象解析より、東日本を遠ざかる高気圧の勢力そのものは弱まる傾向にありながらも、上空に非常に乾燥した空気が流れ込んだこと

台風の接近とオホーツク海から沿海州にかけての低圧部に向かって空気の吹き出しが発生、関東～北海道にかけての上空を覆った乾燥空気が下降流となって地上(海面)付近に流れ込んだこと  
地上(海面)付近では上空の乾燥空気に対して相対的に湿度が比較的高くなっていったこと  
などによってダクトが発生しやすくなったと推定します。

尚、東日本～北日本上空にかけての乾燥空気の流れ込みは21日午前中まで続いたものとみられます。